



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2022年1月20日発行 第45号

遅くなりましたが、新年あけましておめでとうございます。新しい年明けとはいえ、早々から「オミクロン株」なるものが全国的に席卷し、コロナ感染症が第6波の山場を迎えようとしているようです。今年もコロナ禍に振り回されそうだと思うと気持ちも晴れません…。しかし、これも天命と思い何事も前向きに考えることが、本アカデミーの生き残りにも関わることにつながるものと自覚していきたいと思います。

◎ LPレコード音楽サロンの近況です！

12月16日は、ベートーヴェンの生誕日です。1770年に生まれてから2020年が生誕250年という記念イヤーでした。その為、ベートーヴェン特集を続けていましたが、その記念イヤーも昨年の12月で最後を迎えることとなり、ふさわしい曲は何かと思い悩んだところです。通常なら「第九」といきたいところですが、一昨年の12月に、鑑賞会として「第九」を披露していましたので、今回は、「交響曲第7番」を取りあげました。



この曲が作曲された頃、ベートーヴェンは聴覚が原因でこの世から見放された時期であるにもかかわらず「明朗快活」な作品であり、逆境のさ中に書かれた作品であることが、現代のコロナ禍における一筋の光明のように感じられたことから選曲させていただきました。



当日のプログラムでは、「交響曲7番」の前にサン＝サーンス作曲、歌劇「サムソンとデリラ」よりバッカナルを鑑賞しました。今回の副題でもある「250年～時空を超える神酒バッカスの愉悦の力」をもとに、ギリシア神話の酒神を主なテーマにしていることがベートーヴェンと共通であることから選曲いたしました。

ところで、今回のメイン曲である「交響曲7番」の演奏者は、当初、ジョージ・セル指揮でクリーブランド管弦楽団の予定でしたが、音楽サロン直前にレコードの不具合が生じ、急遽、ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮でベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に変更いたしました。LPレコードは管理が非常に大変で、傷もつきやすく汚れやほこりにも弱く、試聴を重ねるごとに摩耗も進行します。新品のレコードなら問題は少ないかもしれませんが、半世紀も経過している在庫のレコードは、状態が良くないものも多くあるのが現実です。しかし、在庫レコードの中には名盤も数多くあり、LPレコードの特質の一つと捉えていただき、奥深くもあり幅広い魅力を今後も提供できればと思っています。

プログラムの最後は、クリスマスも近いことから、西洋音楽の根幹にも触れる機会として、本アカデミーの米山学長からミニ講座を開催していただきました。西洋音楽といえば、「聖書」が深くかかわっていますが、ヘンデル作曲のオラトリオ「メサイヤ」を取りあげ

裏面へ

られ、解説も交えながら「メサイヤ」の一部を鑑賞しました。神々をたたえる宗教音楽の一端を味わうことが出来ました。締めくくりには、クリスマスソングとして有名な「きよしこの夜」をオーケストラ演奏と独唱で鑑賞し、クリスマスの本質を肌で感じ取ることが出来たように思えました。

この度もアンケートに答えていただいた中から一部ですが紹介いたします。

◆初めての参加ですが、日頃、クラシック音楽を聴く機会は少ないのですが、皆さんと共に素晴らしい機器・音響で聴かせていただき、感動いたしました。また、米山学長さんの講話で、より音楽を深めて聴くことが出来ました。

◆LPレコード音楽サロンは、クラシック音楽に関するアカデミックな講義やアナログレコードの素晴らしい演奏が聴けるので、毎回とても楽しみにしています。

◆レコードの溝にあれだけの音が入っているのは驚きです。米山先生のお話は、ヨーロッパの音楽の深さ、文化、宗教を感じる事が出来ました。

◆なかなか自宅では聴けないような大きな音から小さい音まで聴けてうれしいです。

この度もオーディオショップ・フクダ様のご協力により、高級機器で鑑賞することが出来ました。毎回、音響の奥深さに感動すると共に機器提供を快く引き受けてくださるフクダ様には感謝しかありません。ありがとうございます！

つぶやき

昨年11月、作家“瀬戸内寂聴”さんが亡くなりました。私が寂聴さんをより深く知るきっかけとなったのは、現職教員の時、徳島県で開催された研修会の折でした。その時、講演されたのが寂聴さんで、1時間半があつという間に過ぎ去り、衝撃的な印象が残ったのを今でもはっきりと覚えています。テーマが教育関連に絞られていましたが、豊富な人生観からの確かな指摘を軽妙な語り口で延々と述べられる話術には、メモをする暇も取らせないくらい聴き入ってしまう程でした。そのことを機会に、折に触れ、寂聴さんの書物に目が向くようになりました。

寂聴さんの語録で自分が参考にした言葉を紹介して、ご冥福を祈りたいと思います。

■家庭でも核家族化して年寄りがいなくなって、良い伝統が伝わらなくなった。子供たちは、人間が古い、病み、死んでいく過程を身近に見なくなったから、命について考えもしないし、死の避け難い運命を知ろうともしない。

■戦争は人災。人間がするもの。原発もそう。やらなければ、つくらなければ、防げる。より安全な世界を子どもたちに残すのが、先に生まれたものの義務です。

■好きな言葉は「情熱」。情熱がなければ生きていてもつまらない。

■戦後の日本はお金、お金、お金になり、恐ろしいこと。本当は目に見えないものが大切。神や仏、ご先祖様は目に見えない。もっと見えないのは人の心。しかし、生きていくうえで一番大切。

■どんなに熱い恋愛だって、その気持ちは5年も続きやしません。それと同じで、いまコロナでどんなに孤独で苦しくても、その苦しみは永遠には続きませんよ。「すべてのものは移り変わる」というのが、お釈迦様の教えです。

なお、受け取り方には個人差があることを申し添えます。